

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772201832
法人名	和田建設株式会社
事業所名	グループホーム・田島サンライフ
訪問調査日	平成 21 年 2 月 3 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 17 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月 日

【評価実施概要】

事業所番号	2772201832
法人名	和田建設株式会社
事業所名	グループホーム・田島サンライフ
所在地	大阪市生野区田島4丁目3番2号 (電話) 06-6758-0167

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2丁目1番8号 親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年2月3日	評価確定日	平成21年3月17日

【情報提供票より】(20年12月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 8 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 14.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,666 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(150,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(5年)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	496 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1246 円			

(4) 利用者の概要(12月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.7 歳	最低	60 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

医療法人穂翔会村田病院 医療法人福寿会診療所 かねむら歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体が建設会社であり、その社長自身が地域福祉に理解を示され、所有している土地に現ホームを4年程前に建ち上げられたというきさつがある。鉄筋コンクリート作りの建物が多い中で、柔らかい雰囲気を出すべく、竹垣をイメージした木の格子でホームを囲んでいる。更に、屋上に畑や多目的広場を設けられ、利用者が土に触れるよう工夫されている。共用空間も広くて清潔感があり、コミュニケーションスペースも充分で、それ様の和室もある。食事についても利用者本位に考えられていて、食材を1週間分程買い込んでおき、その日に利用者の様子等を見て、献立を工夫し作っているとのことである。管理者や事務長以下全職員は非常に明るく、働き甲斐を持って日々利用者に接しているという印象を受けた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題として、①チームケアのための会議、②継続的な研修の受講の2点が指摘されていたが、①についてはすでに正職・非正職にかかわらず参加できる定期的なケアカンファレンスがもたれ、ケアプランの見直しも行われていた。②についても、運営規定に記載されている如く、年2回継続研修として外部研修を受講し、資料等を職員全員で閲覧されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、管理者や事務長が中心となり、定期的なケアカンファレンスやちょっとしたミーティング時にできるだけ多くの職員の意見を聞き、改善点を見出す努力をされていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議については、やっとな年より2~3ヶ月に1度開催されるようになり、討議内容についてもまだまだ満足できるものではないが回を重ねるごとに充実しつつある。しかしもう少し欲を言えば、近隣住民の代表や民生委員、行政の参加が得られるよう努力される余地はある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	この点に関してはまだまだ努力の余地があるように思われる。近隣にもかかわらず家族の訪問が少ない。従って家族の意見や苦情、不安を聞き出す機会が少なく、そのため訪問される家族については何でも言える雰囲気作りを心がけている。また、運営推進会議でも出席される家族からは色々要望が出たりして、ホームの運営上の参考になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の大半は午前中の散歩を好まれるので、近隣の住民との挨拶は出来ている。ホームの立地上隣の地域自治会を利用して、その行事(地藏盆やミニ喫茶等)に参加している。しかし、地域との連携となるとまだまだ努力の余地はあるように思われる。ホームもせっかく高齢者認知症のケアについての豊富な経験を持っているので、それらを地域に発信するなど工夫が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの理念として、「自立を目指し、生活リハビリを中心として、入居者一人ひとりがその人らしい生活を送れるように支援する」を掲げられている。	○	理念については、平成18年4月の法改正により、表現方法として従来の「家庭的な環境の下で」とともに、「地域住民との交流の下で」が加えられ、より強く地域密着性が求められている。現在の当ホームの理念からはそれが感じ取れ難く再考をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに掲示され、職員に徹底している。ケアカンファレンスや申し送りのなかで理念を確認し、正職員には理念を書いたカードを渡し、利用者に実践していくよう指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域自治会には加入していないが、自治会の行事(地藏盆やミニ喫茶など)には参加している。	○	当ホームについては、立地上隣の自治会を利用している。また、近隣に大きな幼稚園があるが全く交流できない状態である。先方からの声かけを待たず、ホームとしても何か積極的に認知症ケアのあり方などを発信するなどして努力されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については事務長や管理者が中心となって、定例ミーティング時などに、なるべく全職員で検討し改善点を見出すよう努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より2~3ヶ月に1度開かれるようになり、内容も充実しつつある。ホーム側からは運営状況の報告や利用者の生活状態、年間の行事予定の案内などを行っている。利用者の介護の仕方などについては、家族やその他出席者(社協など)から色々参考になる意見をいただく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生野区役所介護保険課や生活支援課に積極的に訪問し、情報を得たりあるいは困りごとの相談にのってもらったりして、ホームのサービスの質の向上に役立てている。介護相談員の受け入れも検討中である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	原則的には家族が訪問時、利用者の状態について報告しているが、家族の訪問については近隣にもかかわらず少ない。つい電話報告になりがちである。1ヶ月に1度は請求書に「サンライフ新聞」をつけてを送り、事業所全体の様子を報告している。	○	多忙な職員に無理を言うようであるが、せっかくサンライフ新聞を送っているのであれば、それに各利用者ごとの近況を簡単でいいから添付報告したりして、もっと訪問してもらえるような工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心がけて、率直に何でも言っていただくよう心がけている。運営推進会議でも家族からはよく意見を言うていただく。ケアプランの見直しなどの参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はたまにはあるが、利用者への影響を防ぐべく、利用者一人ひとりの状況をケアミーティングなどで職員全員が共有している。いわゆるチームケアに徹底している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時には研修も兼ねて3ヶ月間試用期間を設けている。継続研修については順次受講し、資料等結果をまとめ全職員閲覧して共有するようにしている。向上心を持って働き続けるための資格取得支援制度(時間的援助)もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	生野区内にはいくつかの在宅専門ケアの研究会が月1回あり、管理者あるいは事務長が参加し、情報を得たり交換したりしてサービスの質の向上の参考にしている。同区内ではグループホームのみ単独で経営している事業所が10数ヶ所あり、その交流会の立ち上げを準備中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者と家族の安心・納得を得られるため、入居前は何度もホームを見学をしてもらったり、体験入居も経験してもらい、ホームの雰囲気を理解して、職員と顔なじみになってもらえるようにしている。また、ホーム側も利用予定者の家庭訪問をして、性格や人生歴を知り利用予定者と接触する参考にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアすることよりも共に生きることを支援するという態度で利用者と接している。利用者からも、和裁、昔話などを教えてもらっている。やはり出来ることと出来ないことの差が大きくなりがちで、出来ることを大切に支援している。貴重な余暇も一緒に楽しむようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの第1歩は、利用者の性格や人生歴をよく知ることから始まるということで、全員でそれらを共有し、これから快適な生活を送っていただく参考にしている。本人との何気ない会話からも本人の希望や意向をつかむ努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で利用者の思いを聞いて反映させるようにしている。ケアマネージャーと、ユニットリーダーや職員が意見交換を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しの他、家族の要望や本人に変化が生じた場合は期間にとらわれず話し合いを行い、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や外出支援を行っている。週2回、看護師を派遣してもらい、入院した場合、ADLが低下しないように、早期退院を家族に助言している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の診療所や歯科医院からそれぞれ週1回、往診に来てもらっている。入所前のかかりつけ医を継続している利用者もいるなど、本人の希望に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に事業所が対応しうるケアについて説明し、了承を得ている。医療行為を含む看取りは対応していないが、利用者が安心して生活をつづけられるよう、支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることがないように、スタッフ研修やミーティングで話し合っている。呼び名は本人が納得したものであり、お互いが親近感をもてるものになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間など幅をもたせた支援を行い、一人ひとりのペースに合わせる努力をしている。体調に配慮し、本人の気持ちを尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	担当の職員がメニューを考えるが、時には利用者の好みを聞いたり、誕生日には本人の好物に合わせるなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。配膳、片付けなどの作業は利用者がすすんで参加していて、張り合いや自信につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴で、曜日は特に決めず、好きな日にいつでも入れる対応になっている。拒否する利用者には職員が工夫し、清潔に保てるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝い、洗濯物をたたむ、屋上菜園の収穫など一人ひとりのレベルや希望に合わせた役割をもってもらい、力を発揮することで張り合いのある生活を送れるよう支援をしている。囲碁、将棋、ぬり絵、カラオケなどの楽しみごとも行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、体操をしたあと、近くを散歩することが日課となっている。個人の希望に合わせて喫茶店にでかけたり、近隣のスーパーに買い物に行くこともある。また外食の機会も作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面した玄関に、鍵をかけるのはやむを得ないので、利用者が心理的な不安をもたないように、細かな心配りをしている。1階と2階は自由に行き来し、外出希望の利用者には対応できるよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、年1回避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を行っている。隣接する協力病院とも連携をとり避難場所を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとの食事量、水分摂取量を健康管理表に記録し、職員が情報を共有している。利用者の状態に応じてきざみ食などで対応している。定期的に医師による栄養チェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くてゆったりとしている。食事の後はコミュニケーションスペースとして設置されたソファでくつろいだり、一角に設けられた和室で過ごすこともできる。壁面に飾られた大きな油絵が心を落ち着かせる。季節感を出す工夫として、その季節ごとの行事を壁面に貼ったりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物が身の回りにあるよう配慮されている。新しく購入する場合は本人が選べるよう支援している。部屋は清潔に保たれていてそれぞれの好む生活スタイルとなっている。		